

学習指導案の例

第〇 学年 算数、数学科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日〇曜日

第〇校時 〇時〇分～〇時〇分

〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇〇

1 単元名

2 単元設定の理由（指導の立場）

次の3点について書いていく。それぞれ〇〇観とは書かず、3段落に分けて書くことが多い。

教材観

教材の価値や付けたい力、発展系列における位置付けなどを書く

例：これまでに～本教材は～さらに～

生徒観

本題材を学習する上での生徒の予想される関心・興味、予想される出方、できることとできないこと、生徒に対する期待感、学習に対する生徒の構え、実態などを具体的に書く。また、事前のレディネステストやアンケートなどのデータをもとに書くこともある。

指導観

上記の2つの観点を踏まえ、どのように指導していくか、個に徹する指導を目指したり、意欲を持って主体的に取り組むために指導上特に留意したり、配慮したりすること、教師の出番や間合いの取り方などを具体的に書く。

※ 3つの観点がバラバラにならないように書くことが必要。

※ 生徒観を先に書き、それを踏まえて教材観、指導観と記載する場合もある。

※ 校内研究等の内容によって、強調して書く部分等がでてくる場合がある。

3 単元目標

単元のねらいが一文で見えるように書く。

A：学習内容（～を、～について）、B：学習活動（〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて）、C：育成する資質・能力（△△できるようにする。）

※A、B、Cの3つの要素を入れる。

4 単元の評価規準 <単元指導に位置付ける評価規準を観点ごとに明確に示す>

算数

数学

(1) <算数への関心・意欲・態度>

(1) <数学への関心・意欲・態度>

(2) <数学的な考え方>

(2) <数学的な見方や考え方>

(3) <数量や図形についての技能>

(3) <数学的な技能>

(4) <数量や図形についての知識・理解>

(4) <数量や図形などについての知識・理解>

5 単元の指導計画と評価計画（〇〇時間扱い）＜単元指導の展開構想を明確に示す＞

時 (本時)	学習活動	評価規準と評価方法			
		算数への関心・ 意欲・態度 (小学校) 数学への関心・ 意欲・態度 (中学校)	数学的な考え方 (小学校) 数学的な見方や 考え方 (中学校)	数量や図形につ いての技能 (小学校) 数学的な技能 (中学校)	数量や図形につ いての知識・理解 (小学校) 数量や図形など についての知識・ 理解 (中学校)
第1次	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content;"> 生徒の立場で表 記する。 (～を考える。 ～を解く。 ～を理解する。 など) </div>	◎ ～しよう としている。 [観察・ノート]		○ ～ができ る。 [観察]	
第2次 (本時)			◎ ～を考える ことができる。 [観察・ノート]		
第3次				◎ ～を解く ことができる。 [小テスト]	◎ ～を理解 している。 [小テスト]
第4次			◎ ～を説明す ることができる。 [観察・ノート]		○ ～を理解 している。 [観察]

※ 評価規準は、1時間当たり、多くて2つぐらいである。

◎は、総括的な評価で、全ての生徒の評価を行う。

○は、過程における評価で、全ての生徒の評価をすることを前提としていない。前時までの総括的な評価をもとに、指導後の変容を評価するなどが考えられる。

※ 目標に到達しているかどうかを確認する評価問題・評価手段を準備する。付けたい学力の性質によって評価方法・手段は変わる。

※ 学校によっては、下記のように指導計画のみ記載している場合がある。

(参考：指導計画（〇〇時間扱い）)

例： 第1次 〇〇 ・ ・ ・ 〇時間
 第2次 〇〇 ・ ・ ・ 〇時間（本時〇／〇）
 〇〇 ・ ・ ・ 〇時間

6 本時案

(1) 題材名 1時間の学習のまとまりにつける名(名詞止め、問いかけ、表現活動等)

(2) ねらい A:学習内容(～を、～について)、B:学習活動(○○を通して、○○でまとめて、○○と比べて)、C:育成する資質・能力(△△できるようにする。) ※A、B、Cの3つの要素を入れる。

(3) 展開

学習活動	時	指導内容及び指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
主眼を達成するために 行う活動を、活動の まとまりで書く。 ※生徒の言葉で書く。 *話し合う *出し合う *考える *作る *調べる 等 ※活動は番号をつける。 (順序制がある) ※あいさつをする などはいれない。	分 単 位 で 記 述	○や・であらわす。 ○は中心的な働きかけや手立て(指導内容) ・は出方の予想や補助的な働きかけ。 ※次のような事柄について書く。 [例] *学習のきっかけ作り *問いかけ(課題提示) *各自のやり方・試行・作業などのさせ方 *どこまで進んだら発表させるか *出してきた答えや根拠の整理・まとめ方 *ずれ・矛盾・疑問点を明らかにしていく方法 *個の力にあった多様な方法を想定しておき、実際に即して指導していく方法 *より良い考えを選び出したり、作り上げていくときの手立て *発展・応用していく方法 *次の時間へのつなぎ方 ・・・など	※指導計画等に位置付け、本時に該当する評価規準を、該当箇所に記述する。 ※評価方法も()で明記する。 ※評価に関連した留意事項等があれば記述も可。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 本時の「ねらい」と評価規準を連動させて設定する。 </div>
本時の「課題」と「まとめ」は で囲む			
		※ 教師の一方的な指導と思われる記述ではなく、生徒の主体的な姿が表れた記述にするとよい。	※評価は、1～2が適当である。

- * 生徒指導を中心に据えての教科指導であれば、生徒指導の3機能を考えた活動が盛り込まれた事柄が書かれているようにする。また、「指導上の留意点」とするよりも「支援の方法」「指導・援助の留意点」などとし、上記のことに配慮した内容になるようにする。
- * 活動の場の在り方を中心に研究していれば「どのような活動を」「どのような目的で」「どのように仕組むか」などが書かれている必要がある。
- * 評価の研究であれば、「どこで」「何のために」「どのような評価をして」「それをどのように生かすか」などを書く必要がある。
- * 評価の欄については、「生徒指導上の配慮点」「評価とその生かし方」「活動の場での配慮点」などの設定も考えられる。

学校独自の学習過程や研究内容にあった指導案づくりをすることが大切。
※ただし、どの学校に行っても対応できるように、汎用性のある指導案を作成できるようにしておくことが重要である。

